

# バスの車種と歴史 ～いすゞ・日野・ふそう編～

津端 和希 監物 諒

## バスの車種とは

おそらく今までにバスの車種を表現するのに「エアロスター」という言葉や、「UA」という言葉などを聞いたことがあると思います。しかし中には『「エルガ」ならわかるがアルファベットの「MP」というのはわからない。』『同じ「ブルーリボン」だけど「HU」と「HT」は何が違うの?』といった方も当然いるでしょう。本稿では、そんなバスの車種についての疑問に答えられるよう、バスマニアの目線から、国内主要メーカー4社の路線バスのものをざっくりと扱っていきたくと思っています。

## バスの『型式』と『車種』

バスにも電車と同じように『型式』というものが存在します。わかりやすくいえば、新幹線の検測車のことを一般に『ドクターイエロー』と呼びますが、あくまでもこれは愛称であり、『923形』というのが正式な名称になっている、といったような関係です。これはバスでいうのであれば「エルガ」や「エアロスター」、「レイナー」といったような名前は各車種ごとの商品名です。しかし各商品にはそれぞれのメーカーで振られた品番があり、その品番の頭に来るのが「LV」や「MP」、「RJ」といったアルファベットによる表現のものです。そして、この2文字のアルファベットのあとに、バスの仕様の詳細情報がつきます。ホイールベース（前輪と後輪の間の長さ）やエンジンの種類、現在では区別されませんが、十数年ほど前に販売された車両であればサスペンションの違いなども表現されています。またこの他にも、ツーステップのバスが主流だった時期の一部のノンステップの車両や、圧縮天然ガス（CNG）を使用して走る車両の型式の末尾には、通常のものとの区別のために改造を意味する「改」が付け加えられたりしています。

といった感じで『型式』について長く書きましたが、このポスターのテーマである『車種』というものは何なのかというと、つまりは商品名のことなのです。

## いすゞ・日野自動車

いすゞ自動車のバス車両は、大型車が「キュービック」中型車が「ジャーニーク」という商品名で、日野自動車のバス車両は、大型車が「ブルーリボン」中型車が「レイナー」という商品名で販売されていました。その後、両社ともに時代に合わせたニーズに対応するため、蓄圧式ハイブリッド車やCNG車、ワンステップ車、フルフラットノンステップ車などが開発されました。その中でも特に特徴的だったのは「HIMR」と呼ばれるモーターとエンジンによるハイブリッドバスです。この車に採用されたハイブリッドシステムはその後の大型自動車で一般的に使用されるシステムの主流となり、今日のハイブリッド車の草分け的存在となった車両でした。20世紀末に各車種でフルモデルチェンジが行われ、いすゞの中型車が「エルガミオ」、大型車が「エルガ」に、日野の大型車が「ブルーリボンシティ」に商品名を変更しました。

その後この2社はバス事業の統合を行い共同で出資したJ-BUS製造株式会社を設立し、2018年現在いすゞは自社製品の「エルガ」と「エルガミオ」を、日野はいすゞからOEM供給された見た目はエルガの「ブルーリボン」と「レイナーII」を販売する形になっています。

## 三菱ふそう

三菱ふそうのバスはすべて「エアロ」を冠した商品名をつけられ、大型車は「エアロスター」、中型車は「エアロミディ」といったように呼ばれています。エアロスターは、販売当初三菱製のボディのものを「エアロスターM」、呉羽車体工業製のボディのものを「エアロスターK」と呼んでいましたが、ボディ製造工場の再編に伴い「エアロスターM」のみになり、同時にエアロミディは新デザインが採用されその車体が製造終了までほぼ変わらず使われ続けました。90年代後半のモデルチェンジ後は「ニューエアロスター」と呼ばれ、現在までこの車両がマイナーチェンジを繰り返しながら製造されています。



参考資料  
西日本車体資料館 (2018)  
<https://nskbodysmuseum.amebaownd.com>  
カナちゃん号 HP (2018)  
<http://kanachango.web.fc2.com/d-menu.htm>

